

母国を離れ海外で健やかに活躍するために【前編】

医療アシスタンスの本当の姿とは？ 最前線でサポートする医師が実例を交えて解説する。



インターナショナル SOS ジャパン(株) メディカルディレクター
医師 湯井 真紀子

緊急医療搬送はほんの一部

インターナショナル SOS ジャパンは、母国を離れ活躍する従業員とその帯同家族が、心身ともに健康で安全に現地での生活を送ることができるようサポートするアシスタンス会社である。今年で創立40年を迎え、ロンドンとシンガポールの本社を筆頭に、世界27拠点の自社アシスタンスセンターが24時間365日体制で司令塔の役割を果たしている。

世界各国の弊社社員は約100の言語を話し、1400人を超える医師を含む4800人以上の医療従事者と、セキュリティ専門家、ロジスティクス専門家が協働しサポートを提供している。本稿では、特に海外で活躍する日本の企業・組織の従業員やその帯同家族への医療アシスタンスに焦点を当て、その概要について事例を交えてご紹介する。

さて、医療アシスタンスという単語から、直



当社スタッフによる緊急搬送のイメージ

感的に重病時の緊急医療搬送をイメージされる方が多いのではないだろうか。それは間違いではない。しかしそれは我々が考える医療アシスタンスのほんの一部に過ぎない。我々にとって医療アシスタンスとは、母国を離れて活動する人々の健康と安全を守るためのサポートである。この立場から見ると、医療アシスタンスは多岐にわたるものであり、渡航前準備の段階から始まり母国への帰還まで続く。

渡航前においては現地入り後に遭遇可能性の高い健康リスクを事前に同定し、リスクを最小化する対策をご提案する。現地入り後においては体調不安時に適切な行動を取るための医療アドバイス提供や受診サポート、現地治療継続の適否や国外搬送要否判断、国外搬送が推奨された場合の時期や搬送方法の最適化判断、そして関連国のアシスタンスセンターが一丸となつての医療搬送の遂行などを行う。

渡航先での様々なリスク

海外勤務者が渡航先で直面する健康リスクにはどのようなものがあるのだろうか。

発展途上国への赴任が決定した人の場合、耳慣れない感染症への漠然とした不安が高まるかもしれない。多くの発展途上国では動物に噛まれたりひっかかれたりした際の狂犬病罹患リスクは未だ存在しているため、特に長期滞在者や小児は事前の予防接種を検討する。熱帯・亜熱